

参加してみませんか！～門前花いっぱい運動！！～

太古から「人は花を育て、花は人を育てる」と言われ、花や緑は、心を和ませ、落ち着かせ、時に励まし、そして心を豊かにしてくれます。また、日常生活の中で、潤いや安らぎの媒体であることからコミュニティ形成の手段として、欠かすことの出来ない役割も担っています。

また、皆さんもご存知の通り、阪神・淡路大震災や東日本大震災からの復旧・復興への大きな力となつたのが、花と緑でした。

我が家にも、ご近所さんにも、道行く人にも潤いや安らぎを提供できるのが門前花いっぱい運動です。何もない門前よりも、花一輪、一鉢でもある門前は気持ちを落ちさせます。

参加したい！という気持ちがあれば、どなたでも参加できます。まちづくりの花、咲かせませんか？！

やってみよう！

プランター、テラコッタ、ハンギングバスケット等で門前を飾る。



道行く人や、御近所さんに潤いや・安らぎを提供し、心のふれあい、人のぬくもりを共有するんだね！

ご質問等ございましたら、下記【お問い合わせ先】までご連絡ください！



門前は道路占有問題や交通障害になるおそれもありますのでご注意ください！希望があれば植栽の講習会なども開催します！

昭和14年荒井に生まれた仲間が集う！～荒井再発見の一日～

地域の歴史を巡り新たな魅力を発見する活動を続けている団体が第139回目に訪れたのは荒井でした。

昭和14年高砂市荒井町に生まれて荒井で育った仲間達が長い時を経て、荒井の地に集結！荒井の今を再発見すべく、一日かけて町並み散策を行いました。

この取り組みに一翼を担ったのが、荒井町の魅力や歴史を次世代に伝えようと、平成19年より活動を行って来た「荒井ふるさと再発見し隊」のメンバーです。

荒井町の魅力を紹介すべく、高砂市役所をスタートし、観音寺、昭和資料館、荒井神社、八幡神社（荒井城址）、荒井村役場跡（現在の荒井公民館）、どろま地蔵、御所殿神社、荒井小学校等を当時を振り返りながら散策しました。「昔とは大きく変わってしまった中にも、面影があり懐かしい思いがした。」、「荒井の町の歴史や魅力を再発見できた。」等の声が聞かれました。

皆さんも、高砂のまちを再発見すべく、散策してみてはいかがですか！！



八幡神社（荒井城址）



小松原三社大神社の説明を聞いている様子

荒井ふるさと再発見し隊メンバー募集！！

荒井町に在住・在勤する方で

興味のある方は是非ご連絡ください。

締切日 令和2年4月30日（木）隊長 榎本司郎 090-1482-2978

編集：みなとまちづくり瓦版つくり隊 発行：高砂みとまちづくり構想推進協議会

【お問い合わせ先】高砂市まちづくり部まちづくり推進室都市政策課 開庁時間 8:30~17:15

〒676-8501 高砂市荒井町千鳥1丁目1番1号 TEL 079-443-9033 FAX 079-443-9091

第13号 令和2年3月 みなとまちづくり瓦版

<http://www.city.takasago.lg.jp/index.cfm/19,0,196,958.html>



インターネットのアドレスが
新しくなったよ！

新しい元号に代わり一年が経とうとしています。

高砂市では、臨海部がもっと元気になるため、住民と企業と行政が一緒になって「高砂みとまちづくり構想」を策定し、構想の基本理念と施策を具体化するため、市民、企業、関係団体、専門家、行政などが一体となって取り組むためのプログラムとして「高砂みとまちづくり行動計画」をつくり、様々な取り組みを行っています。

「みなとまちづくり瓦版」は、高砂みとまちづくり構想の取り組み状況をお知らせするとともに、高砂市臨海部の魅力をもっと知ってもらいたいと「高砂みとまちづくり構想推進協議会」の有志が集まって作成したものです。



令和元年の主な取り組み

産業ミュージアム部会

- ・竜山石、高砂染、松右衛門帆のPR
- ・高砂駅前再整備に向けた検討
- ・景観保全・美化活動

ウォーターフロントミュージアム部会

- ・ふれあい花壇の充実
- ・海浜公園のバリアフリー化
- ・アオサ等の清掃活動、水質保全
- ・たかさご万灯祭の実施

歴史ミュージアム部会

- ・古い町屋、空き家の利活用
- ・堀川地区の歴史資産の調査と活用

高砂市 の 魅力探訪

みなとまちづくり活動の一環として実施した工楽松右衛門旧宅とその周辺の町並みを散策！みなとまちづくり瓦版つくり隊のメンバーであり、高砂歴史ガイドクラブでご活躍されている唐津さんに案内をしていただきながら、新たな魅力を再発見してきました！ぜひ、ご覧いただき、魅力探訪に出発してください！



工楽松右衛門 旧宅公開中！

知つとこ案内 公式サイト⇒<https://kurakutei.wixsite.com/kuraku>



工楽松右衛門旧宅外観

工楽松右衛門旧宅の土地・建物は平成28年1月に工楽家から高砂市に寄贈され、1年4ヶ月の歳月をかけ、約200年前の建築様式に可能な限り近い形で復元されました。

舟運の歴史を持つ高砂特有の舟板を用いた舟板壁、白い漆喰、屋根には煙出しの「越屋根」、ミセの軒下の収納可能な縁台「ぱつたり床几（しょうぎ）」や、板の表裏に格子を組み込み、上下2枚に分かれる建具「しとみ戸」など、見どころ満載！に復元されました。

- 入館料 無料
- 開館時間 午前9時～午後6時
- 休館日 12月29日～1月3日
- 駐車場 当館東隣 14台
- 連絡先 TEL 079-490-4790 FAX 079-490-4798

もっと知つとこ！！

案内人：昔は旧宅のすぐ東に船着き場があり、駐車場整備に伴い発掘調査をしたところ、江戸時代の南堀川遺構が良好に保存されていることが分かりました。

堀川護岸の石垣や、舟から荷物を揚げ降ろしする際に使用する雁木という石階段などが整備されています。

また、整備された旧宅の奥には再建はされていませんが、湯殿や便所の遺構などもあって、当時の生活の様子をうかがい知ることができます。



説明に聞き入る隊員



工楽松右衛門旧宅内部の炊事場



裏庭の湯殿跡、廁跡、大きな蔵跡

隊員：観察しただけでは、何の変哲もない構造物に見えますが、詳しい説明を耳聴すると、荷物を運搬する人が行き交ったり、堀川に舟がひしめくなど、当時の高砂の繁盛ぶりが目に浮かびます。また、地下に埋設された構造物を目の当たりにすると、舟運の集積地であった当時のまちのにぎわいを想像することができます。

（浅原）

隊員：旧宅が改装されてから暫らく経っていますが、一度も足を運んだ事が有りませんでした。今回、みなとまちづくり瓦版の発行に伴って行く機会を得ました。行ってみて当時の工楽松右衛門の暮らしぶりが、垣間見て有意義な時間を過ごすことが出来ました。

高砂市民で私のように見学したことがない方は、ぜひお出かけください！

（綱干）



散策を終えて！

隊員：編集委員会として工楽松右衛門旧宅周辺を歩き、駐車場、トイレ、雁木、案内板などがすっきりと整備されて観光地の拠点としてはよく出来ていると感じた。しかし、立派に修理された旧宅の中に入ると、ただガランとして、「船主集落」の幟（のぼり）がなければ百姓家か商家かと見間違はばかりである。松右衛門や北前船関係の資料や蔵書、モニュメントなどの集積にもっと力を入れてはどうだろう。（唐津）

隊員：高砂町には、たくさんの町が存在し、その町の人にしか知らない見どころがたくさんあります。高砂町を散策しましたが、楽しい半日を過ごす事ができました。

高砂町、いいとこやで！

（綱干）

マッチ：高砂町には、地元の人も知らない、自慢できるところが沢山あるんだね！

探してみよう！

備前焼の狛犬

案内人：高砂神社にはたくさんの狛犬があります。経年劣化で頭の部分が欠けてしまっていますが、お尻を高く持ち上げ頭を低く構えた姿勢をとる狛犬や、備前焼きで作られた狛犬。珍しい狛犬を探してみてください！



備前焼の狛犬
見つけられるかな？

相生の松！の不思議？！

案内人：黒松（雄松）と赤松（雌松）の幹が途中で合わさり、夫婦の契りの深さにたとえられる相生の松。一本から分かれ



た黒松（雄松）の針葉はとても固く、赤松（雌松）の針葉は柔らかくしなやかです。また、色も随分と違っています。よく観察して違いを探してください！

竜山石の側溝！

案内人：高砂町は江戸時代初めに姫路藩により建設された計画都市であり、碁盤の目で道路が走る町並みも特徴の一つです。また、当時としては道路幅も広く、両側には竜山石を使った側溝が設けられていました。現在も確認できる場所がありますので、探してみてください！



竜山石が使われている側溝

高砂神社と常夜灯、相生の松！こまちゃん発見！

知つとこ案内

案内人：古くから、謡曲「高砂やこの浦船に帆を上げて・・・」と、親しまれている高砂神社。その正面の立派な大鳥居は、阪神淡路大震災で倒壊してしまった後、平成7年に建て替えられたものです。倒壊した鳥居は境内にモニュメントとして再利用されています。こまちゃんもその一つ。可愛らしい姿をぜひ見つけてください！

大鳥居を再利用して作成されたこまちゃん！

もっと知つとこ！！



高砂神社の丸瓦

案内人：高砂神社の屋根瓦には、丸に立ち葵紋が入っています。これは、尊崇熱く、社殿を旧社地に再建した本多忠政の紋に由来するもので、徳川家、加茂神社とかのほることができます。アオイ（葵）というのは、あうひ（逢う日）という言葉からきたものとされ、人ととの出会いを大切にという願いも込められています。

姫路藩主
本多忠政の紋

